



① 日本国特許庁

公開特許公報



特許願

願

(200019)

昭和47年8月24日

特許庁長官 井土 武久 殿

1. 発明の名称

移動手術台の旋回及び固定制御装置

2. 発明者の住所氏名

実用新案登録出願人と同じ

(ほか 名)

3. 特許出願人の住所氏名

東京都文京区西片 2丁目7番13号
安 藤 俊 治

(ほか 名)

4. 代理人の住所氏名

703 日本
東京都港区新橋2丁目16番1 ニュー新橋ビル7階
電話(03)78111番(代)
1874 弁理士 北 村 亨 吉
6002 弁理士 北 村 欣 一(ほか 3 名)



47 05081J 方式

明 細 書

1. 発明の名称

移動手術台の旋回及び固定制御装置

2. 特許請求の範囲

一对の固定脚輪と一对の自在脚輪とを前後して設けた基台に、前記固定脚輪と自在脚輪とを交互に不作動にする自在脚輪と停止脚杆とを有する枠体を取付け、該枠体を傾動させて、これに設けた前記自在脚輪と停止脚杆とが交互に作動するようにこれを基台に設けたベタルに連動して回動する旋回盤の傾斜案内軌条に係合させたことを特徴とする移動手術台の旋回及び固定制御装置。

3. 発明の詳細な説明

本発明はベタル操作により床上における直進、旋回並びに固定が自由に選択できるようにした移動手術台の固定及び旋回制御装置に関する。これを図示実施例のものについて説明すると、(1)は手術台の支脚の下部に設けられる基台で、該基台(1)は中心の円盤(2)を内包する如く下方を

①特開昭 49-9888

④公開日 昭49.(1974)1.28

②特願昭 47-50813

②出願日 昭47.(1972)5.24

審査請求 有 (全4頁)

庁内整理番号

⑤日本分類

5656 54

94 A73

開方された方形の枠体に形成され、その前部には一对の固定脚輪(3)(3)を取付けると共に、その後部には一对の自在脚輪(4)(4)が取付けられている。(5)は枠体で、該枠体(5)はその中心部を前記円盤(2)に枢支することにより基台(1)内に揺動自在に枢支され、その前部には一对の自在脚輪(6)(6)を取付けると共にその後部には一对の停止脚杆(7)(7)が取付けられている。(8)はベタルで、該ベタル(8)は、左右に設けた踏板(9a)(9b)の中央より突設した軸杆(10)をもつて基台(1)に回動自在に軸支され、該軸杆(10)には基台(1)(1)において、ばね(11)で弾発されるカラー(12)を嵌挿し、該カラー(12)より突設した一对の止輪(13)(13)をそれぞれ基台(1)を貫通して外方に突出させ、その先端をベタル(8)に設けたノツテ(14)に係合させることによりベタル(8)は左右の踏板(9a)(9b)が水平に保持安定されるようにし、そのノツテ係合に抗して各踏板を踏下け得るようにし、軸杆(10)の後端には傘歯車(15)が設けられている。(16)は旋回盤で、該旋回盤(16)は扇形に形成され、その要部に設け

た傘歯車(4)を前記傘歯車(3)に噛合せることにより基台(1)内に回転自在に取付けられ、その弧面には傾斜した案内軌条(2)を設け、該軌条(2)を挟持する如く前記枠体(5)には一対の案内コロ(4a)が設けられている。(4)は軌条(2)の両端に設けた停止片を示す。

本発明は上述の如く構成されるものであるから今第2図および第3図の如く止極(4a)がノッチ(4)に係合されてペダル(8)の左右踏板(9a)(9b)が水平位置に保持された状態においては枠体(5)はそのコロ(4a)が旋回盤の軌条(2)の中間部を挟持して、水平に保持され、その前後の自在脚輪(6)と停止脚杆(7)とは不作動の状態となり、基台(1)は前部の固定脚輪(3)と後部の自在脚輪(4)とにより直進するように移動され、又左方の踏板(9a)を踏下げることにより、軸杆(4)を回転させ傘歯車(4)の噛合により旋回盤(3)は第2図で矢示方向に回転されて、枠体(5)は、そのコロ(4a)が軌条(2)の左方を挟持して第4図の如く前端が降下し停止脚杆(7)が床面に接し自在脚輪(4)を床面か

ら浮上させるように作動して基台(1)は固定され、更に右方の踏板(9b)を踏下げることにより旋回盤(3)は前記矢印と反対方向に回転されて、コロ(4a)は軌条(2)の右端を挟持して第5図の如く枠体(5)の後端が降下し、自在脚輪(6)は床面に接し固定脚輪(3)を浮上させるよう作動して基台(1)は、自在脚輪(4)(6)の作動により自由に旋回できるものである。

このように本発明によるときは、基台の旋回及び停止は、直進すべく基台に設けた一対の固定脚輪と一対の自在脚輪とをそれぞれ不作動とすべくそれ自体が作動する自在脚輪と停止脚杆との切換操作により行われたものであるからその作動は正確に行われ、而もその切換は自在脚輪と停止脚杆とを前後して設けた枠体を、ペダルに連動して回転する旋回盤上の傾斜案内軌条により係合させて行われたものであるから連動機構が簡単で安価に付られる等の効果を有する。

4. 図面の簡単な説明

図面は本発明の一実施例を示すもので、第1

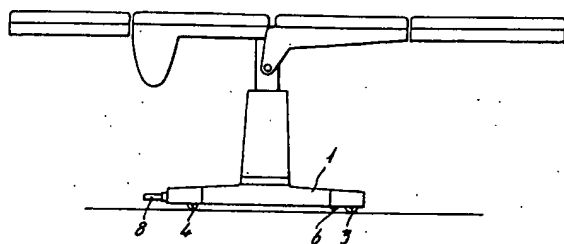
図は本装置を施した手術台の側面図、第2図は本発明要部を構成する基台の裏面斜視図、第3図乃至第5図は作動を示す側面線図である。

(1)・・・基台、(3)・・・固定脚輪、(4)・・・自在脚輪、(5)・・・枠体、(6)・・・自在脚輪、(7)・・・停止脚杆、(8)・・・ペダル、(9a)(9b)・・・旋回盤、(2)・・・傾斜案内軌条。

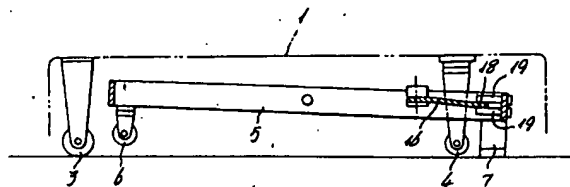
特許出願人 安 藤 俊 治
代 理 人 北 村 欣 一

外 3 名

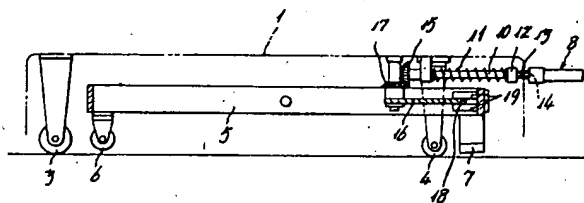
* 1



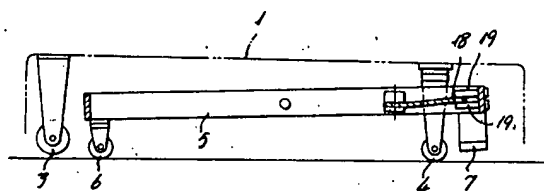
* 4



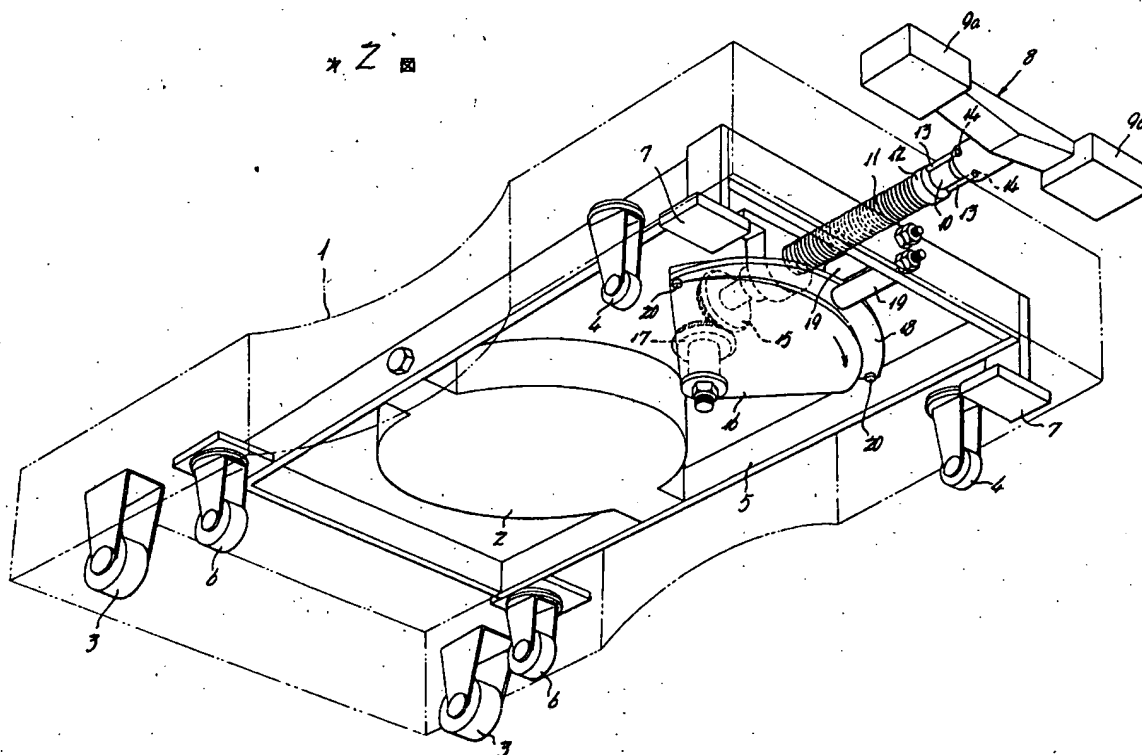
* 3



* 5



* Z



添付書類の目録

(1)	明 細 書	1	通
(2)	図 面	1	通
(3)	図 書 副 本	1	通
(4)	委 任 状	1	通
(5)	出願審査請求書	1	通

6. 前記以外の発明者、特許出願人または代理人

(1) 発明者の住所氏名

(2) 特許出願人の住所氏名

(3) 代理人の住所氏名

東京都港区新橋2丁目16番1 ニュー新橋ビル703

6002 弁護士 北 村 欣

6432 弁護士 北 村 和 男

7067 弁護士 鎌 田 薫

7559 弁護士 鈴木 栄 祐